

生活環境を整え 健康で明るい村づくりを進めて

黒部農業改良普及所 吉 田 みのり

1. はじめに

農業は兼業化し、農村は非農家との混住化が進んでいる今日、農業を中心として形成されて来た地域社会の共通基盤がくずれ、住民の連帯感がうすれつつあります。

従って、農村に住む住民の生活様式、価値観を始め、暮らし方、地域に対する考え方等も変って来ております。

この中で農村に生まれ、育ち、そして農村のよさ、むらの良さを知って、誇りをもって次代の農家、農村を担う後継者が進んでくるようにするにはどうするか。

それにはやはり農業を営み、農村に住んでいる人達自身が、農家生活のよさを自覚し、時代に合った農家生活及び農村の生活環境を改善整備し、都市に見おとりのしない農村地域を自主的に協力し合って、むらを作りかえて行く努力も必要だし、また関係機関の援助を得て常に時代に合うよう作りかえて行く話し合いが住民側で常になされなければいけないと思う。

しかし実際はどうであろうか。個人の生活に追われ、住んでいる地域を良くしていこうという関心はうすく、問題点はわかっているも改善への積極的な意欲にかけると同時に地域の問題を取りあげる機会も少なく生活環境整備推進への組織化も出来ていない。むしろ住民自身改善への努力をせずにその解決を一方的に行政サイドにのみおしつけているというのが実情です。

ここに記載した事例は黒部市東布施地区で

昭和51年～53年の3ヵ年間、実施して来た住みよい村づくり事業の概要です。

地域の生活環境診断を行い、地区の問題点をほり起こし部落座談会、婦人米づくり教室をはじめ、野菜づくり、郷土料理の展示会及び料理集の発行等とあらゆる機会を「住みよい村づくり」に結びつけながらとり組んで来ました。

幸いにも地区の方々熱心な行動と黒部市をはじめとする巾広い関係機関のお力添いによりここに集録したとおりの成果を見るにいたしました。

住みよい村づくりは不断の努力によって維持され成長するものです。この事業を契機に一層、連帯意識が深まり、新しい改善目標に向って前進することと信じております。

2. 事業実施地区の位置と地区の概要

1) 黒部市東布施地区

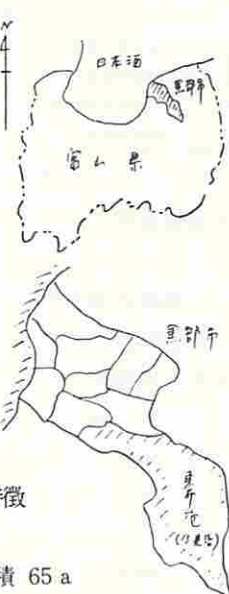
- 総戸数 435戸
- 農家戸数 356戸
 (専業 6戸
 (兼業 350戸)

- 非農家数 79戸
- 総人口 1,879人
- 一戸平均の家族数 4.3人

● 集落数 13集落

2) 地域及び経営上の特徴

- 平地農村の田作
 1戸当り平均耕作面積 65 a

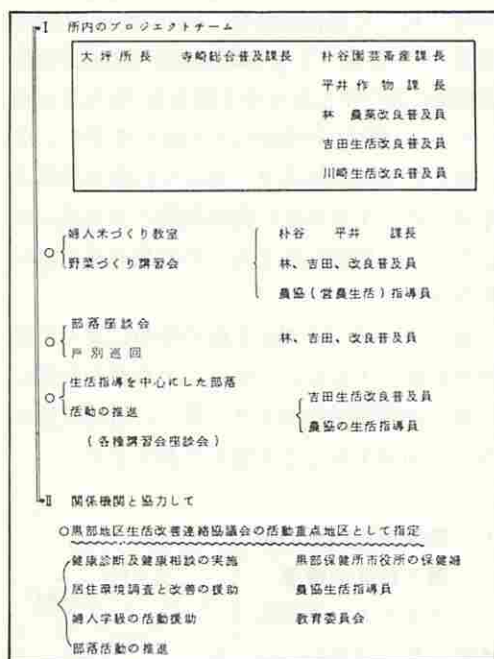


- 布施川沿い南北に細長い地域で、長さ 9 km にもおよび、面積の80%が山である。
- 黒部市街地の中心より約 8 km はなれている。
- 総耕作面積 235ha
- 圃場整備進行率 90%
- 交通の便 地鉄バス 1日12往復

3) 地区の労働状況

- 大部分の人が市内の会社に働いている。
吉田工業、日本鉱業、北陸化工 他
- 季節的な出稼ぎもある。建設工事及び職人

3. 指導体制と活動内容



以上のように普及所を中心に必要に応じて
各関係機関の援助を得てとりくんで来ました。

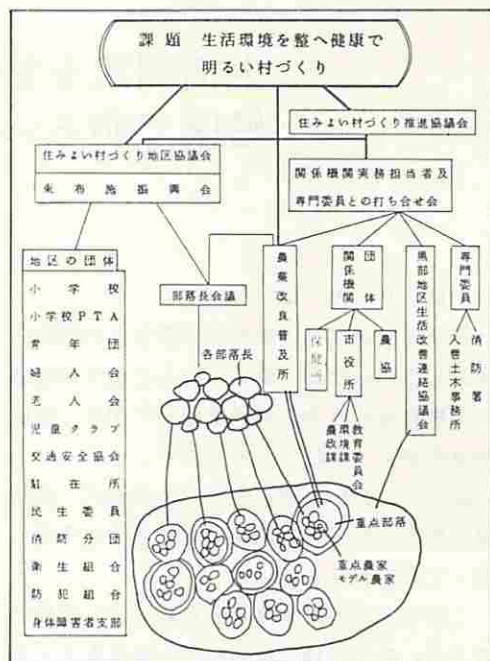
4. 事業の進め方ととりくみ

各部落長を推進リーダーとして部落長会議
を年3回開催してこれを推進母体とした。

年1回、地区の生活環境整備に関する意向
調査を実施し、部落長が部落内で話し合い用
紙に記入して部落長会議に持参して戴く。

そしてその内容を自主的に解決出来るもの
と関係機関に依頼して解決するものに分け、

住みよい村づくり地区協議会にかけてその実
現につとめた。



5. 地域診断の結果、出て来た問題

昭和51年11月、各部落の部落座談会で住民
の話し合いをもとに地域生活環境の総合診断
を非農家も含めて実施した。その結果、総合
評価57.6点すこし問題のある地域と診断され
た。

生活環境診断カルテ

生活環境施設等の診断事項、診断内容及び診断結果

(昭和51年度)

診断項目区分	集落名	理想的な配点	中陣	朴谷	尾山	阿弥陀堂	釈迦堂	内生谷	笠破	池尻	福平	福平開拓	田根	嘉例沢	柳沢別所	合計	平均
1. 安全性	1. 天災による災害	2	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	10	0.8
	2. 危険場所危険物	12	5	7	6	7	9	6	9	4	2	3	5	3	8	74	5.7
	3. 住居の安全	6	5	6	5	6	5	5	5	4	5	4	5	5	5	65	5.0
	4. 防災防犯	10	8	8	10	8	8	8	8	8	8	10	7	7	6	104	8.0
	5. 公害	4	3	2	2	2	2	2	2	3	4	4	4	4	4	38	2.9
	小計	34	21	24	24	24	25	22	25	19	19	22	22	20	24	291	22.4
2. 保健性	1. ゴミ処理	4	3	3	4	4	3	4	3	3	1	1	3	1	1	34	2.6
	2. 下水排水処理	6	3	2	2	2	1	2	2	2	2	1	2	2	1	24	1.8
	3. し尿、糞尿処理	4	2	2	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	46	3.5
	4. 衛生、害虫防除	4	3	4	2	2	2	3	2	2	1	2	2	2	2	29	2.3
	5. 給水	6	2	4	3	4	4	2	4	3	3	3	4	4	4	44	3.4
	6. 医療・保健	6	4	3	4	5	4	3	3	2	1	2	2	1	1	35	2.7
	小計	30	17	18	18	20	18	18	18	16	12	13	17	14	13	212	16.3
3. 利便性	1. 道路交通	6	4	5	4	5	5	4	5	4	2	0	4	0	1	43	3.3
	2. 通信	4	4	3	4	4	4	4	3	3	2	2	4	3	2	42	3.2
	3. サービス	4	3	4	4	4	4	3	2	3	1	0	2	0	0	30	2.3
	4. 共同解決	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0.2
	小計	16	11	12	12	13	13	11	11	10	5	3	10	3	3	117	9.0
4. 快適性	1. 自然環境の保全美化	3	1.0	3.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.5	3.0	3.0	28.5	2.2
	2. 憩い	3	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	17.5	1.3
	3. 人間関係	4	3.0	1.0	1.5	2.5	2.0	2.0	3.0	2.5	3.0	4.0	3.0	2.0	1.5	31.0	2.4
	小計	10	5.5	5.5	5.5	6.0	6.0	5.5	6.5	5.5	6.0	8.0	6.5	5.5	5.0	77.0	5.9
5. 文化性	1. 教育、教養、娯楽	6	2.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	3.0	2.0	0.5	3.0	0.5	0.5	31.0	2.4
	2. 体力	3	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	0.5	1.0	1.0	0.5	14.0	1.1
	3. 地域住民	1	0.5	0.5	0.5	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	0.5	0.5	0.5	7.5	0.5
	小計	10	4.0	5.0	5.0	6.0	5.5	4.5	4.5	4.5	3.5	2.0	4.5	2.0	1.5	52.5	4.0
合計	評 価	100	58.5	64.5	64.5	69.0	67.5	61.0	65.0	55.0	45.5	48.0	60.0	44.5	46.5	749.5	57.6
			II	III	III	III	III	III	III	II	II	II	II	II	II		II

5. 地域診断の結果出て来た問題

みんなで話し合いリーダーを作って解決しよう。

黒部市 東布施地区

課題 生活環境を整え健康で明るい村づくり

◎ 地域全体でとりくむもの

- 防火施設が十分でない
- 子供のあそび場が少ない
- 県道に沿って用水路はあるが防火用水であり、家庭雑排水でありゴミも流す、川の水量も少ないので不衛生である。
- 共同排水施設がない。
- 市街地の人は山にゴミをすてに来る（ネコ、自転車）
- ゴミステーションの不備
- 飲料水が年間のうち不足する部落がある
- 結婚式、葬式に必要以上の見栄をはっている
- 郷土にはこりもち、心のよりどころという意識はあるが態度に積極性がない

◎ 個人で解決するもの

- 川にゴミをすてる
- ゴミ集取日を守らない
- ゴミの出し方が悪い
- 屋敷内の排水溝の不備
- 屋敷内外の整理整頓が悪い
- 住宅の改善
- 集合時間が守られない
- 部落の諸会合にあまり出席しない
- 家族の中で話し合いの時間が少ない

◎ 関係機関の協力を得て解決するもの

- 防火施設が十分でない
- 県道添いの用水路は水量が少なく防火用水としての役をなさない
- 県道に沿って溝があるが巾がせまく浅いため県道を除雪すると道路に水があふれてザイがつき個人の住宅にまで害を与える。
- 集落の道路で未整備のところがある
- 雪がふると交通のとだえるところがある
- 道路がせまくカーブが多いため防犯には十分でない
- 川、用水路に安全サクが不備のところが多い
- 子供のあそび場の整備
- ゴミ集取車の巡回しない部落がある

黒部農業改良普及所

住みよい村づくり事業

青年団に対する意向調査の結果(対象数 17名)

- あなたは今、住んでおられる東布施地区に何かほこりと愛着のようなものを感じますか。
該当するところに○印をつけて下さい。
○感じる 93% ○感じない ○わからない 7%
- 部落にはいろいろのしきたりがあるようですが、これは改めた方が良いと考えるものはいないか。
○物事がすごく派手になった。 ○物事のあった時の金品の交換(祝事)
(人とのつき合い方) ○見舞返し、香典返し
- この10年間に部落の人々の生活はかなり変わって来たと思います。あなたはどのような点が最も変わったと思いますか。
○家中の人が(家族の者)ほとんど働きに出る
○部落内のつき合いが遠く感じられる(人間的なつながりがうすくなった)
○農業が専業から兼業に変わった
○自家用車、電話の普及により表面的には文化生活になった
○収入がふえたがお金の使い方も派手になった
- この10年間に部落の生活が良くなったとしたらどのような点ですか。
○道路が良くなった ○働き場所が出来、収入がふえた ○公民館が出来た
○圃場整備で田が大きくなり、農作業が楽になった ○交通の便が良くなった
- この10年間に部落の生活がしにくくなったとしたらどのような点ですか。
○隣家とのつきあいが薄くなった ○社交の場が少なくなった
○部落の団結力がなくなった ○人のつきあいが派手になった(お金)
- あなたの夢みる生活とはどんな型ですか
(1)健康でなごやかな平和な家庭で暮らす生活 7名 41% (4)何でもそろっていて便利で豊かな生活 1名 6%
(2)その日、その日をゆかいに楽しむ生活 2名 12% (5)世の中のためになることをする生活 —
(3)自分のやりがいのある仕事にうち込む生活 2名 12% (6)金はなくとも心にゆりのある生活 5名 29%
- あなたがよりよい生活をするためにはどうすればよいと思いますか。
○所得の増加 ○人と人との交わりをよくしたい ○生きがいをみつける ○現在の生活で満足

住みよい村づくり事業の資料

小学校5、6年生に対するもの

アンケートのまとめ(対象数 62名)

このアンケートはあなたの生活がもっともっと楽しく送れるようにするにはどうすればよいか、どうすれば良い生活になるための調査です。ご協力下さい。

- あなたはテレビを1日何時間ぐらい見ますか。
1 1日 3時間 48% 2.5時間 19% 3.5時間 6%
- テレビを見るのは何時ごろまでですか。
朝 7時~8時まで 39% 夕 5時~9時まで
朝 6時からテレビを見ている
- あなたは春秋の祭りはたのしいですか。
ア、非常に楽しい 5% イ、楽しい 62% ウ、あまり楽しくない 24% エ、関係ない 9%
- あなたの遊びについておたずねします。
(1)どこで遊びますか
家の中(自分の家) 54% 家の外(田んぼ) 10人 42%
(友達の家) (家のまわり) 9人
(学校のグラウンド) 7人
(2)だれと遊びますか。
友だちと 90% 兄妹と 3% ひとりまたは犬と 6%
- (3)どんな遊びをしますか。
キャッチボール) トランプ、マンガ) ナワトビ)
バドミントン) ゲーム、コマ) オニゴッコ)
野球 球) ショウギ) カクレンボ)
- あなたの家で生活をもっともっと楽しく送るために、良い生活をするために、
○お父さんに望むこと 部屋を作ってもらいたい 16% もっとやさしくなって自分と話してほしい
遊びにつれて行ってほしい 16% 早く帰って来てほしい
小使いを上げてほしい 11% お母さんと仲よくしてほしい
遊び道具を買ってほしい 11% 一緒に遊んでほしい
○お母さんに望むこと 小使いを上げてほしい 26% どこでもつれて行ってほしい
物を買ってほしい 14% 会社から早く帰って来てほしい
やさしくしてほしい 16% 部屋がほしい
あまり無理をしないで 体を大切につけてほしい
働いてほしい 21%
- あなたの住んでいる東布施地区がどのようにになれば住みよくなると思いますか。
○公園を造る(広場を造る) 20% ○道路の整備 11% ○スポーツセンター 8%
○サイクリングコースの整備 13% ○図書館の設置 10% ○文房具屋の設置 9%
○スキー場の整備 13% ○ショッピングセンター 9% ○観光地に 5%

6. 生活環境整備に関する住民の要望と対策

調査の結果出て来た問題を安全性、保健性、利便性、快適性、文化性に分け、更に部落別のもの、地区全体でとりくむものに大別して年次別に改善目標をたてる。

そして関係機関の実務担当者として出て来た問

題を検討し、その内容により専門委員も加わって年次別改善案の中から解決可能なものと出来ないもののがかりをキャッチして住民と話し合いを重ねた。この打ち合わせは年1回、関係機関が予算をたてる前に毎年実施した。

住みよい村づくり事業						
生活環境整備に関する住民の要望と対策（改善策）						
項目	部落名	住民の要望	対策（改善案）			備考
			昭和52年度	昭和53年度	昭和53年以降	
安 全 性 に つ い て	中 陣	<ul style="list-style-type: none"> ●部落内の用水路の整備と取水口を改良して多くの水を川に流してほしい ●除雪による水害対策を考えてほしい ●道路巾が1部せまいのとカーブが多いので ●防犯灯の整備（2カ所） 	東布施全体で防犯灯の設置数 （増灯 4灯 水銀灯のきりかえ 16カ所）	東布施全体で防犯灯の設置数 （増設 4灯 水銀灯のきりかえ 16カ所）		地区全体として要望すること ①防火用水路の完備 ②子供のあそび場の設置 ③防犯灯の増設 ④嘉例沢の地すべり対策 ⑤布施川ダムの早期着工 ⑥布施川並びに田糶川の管理体制の強化 対策（S52年度で解決出来るもの） ⑦子供のあそび場の設置と整備
	朴 谷	<ul style="list-style-type: none"> ●宮の谷川の整備（砂防工事） ●防犯灯の増設（2カ所） ●防火用水の確保（尾山の谷川清治さんの前より） 	取水口を改善する			
	尾 山	<ul style="list-style-type: none"> ●除雪、消火栓に関して清水川からの取入口を今の2倍の大きさに改善してほしい ●防火水槽の設置 ●防犯灯の増設（1カ所）水銀灯に切りかえ（2カ所） 		敷地提供を受けて		
	阿弥陀堂	<ul style="list-style-type: none"> ●防犯灯の増設 ●防火用水の整備 ●除雪による水害の防止 				
	柳沢別所	<ul style="list-style-type: none"> ●防火水槽の設置 ●防犯灯の増設（4つ） 		防火貯水槽の設置		
	内生谷	<ul style="list-style-type: none"> ●ガードレールの設置（川添い(100~150m) 県道ぞい(30m) ●ガードレールと同時にアスファルトの舗装 ●防犯灯の設置 	県道ぞい（30m）			
	福 平	<ul style="list-style-type: none"> ●防犯灯の設置 ●防火貯水槽の設置 	防火水槽の設置 水量20トン程度のもの			
	田 糶	<ul style="list-style-type: none"> ●防火水槽の新設 ●防犯灯の増設 	→改修の予定			
	笠 破	<ul style="list-style-type: none"> ●用水の安全サクの速急の設置 ●防火用水の溜マスの設置 ●用水の改修 			防火用水（S54年）	
	池 尻	<ul style="list-style-type: none"> ●長引野用水の安全サクか又はフタをしてほしい ●防犯灯の増設（2） ●防火用水の整備 ●県道ぞいにガードレールの設置 	県道ぞいのガードレール 田糶橋より150m			
嘉例沢	<ul style="list-style-type: none"> ●地すべり 					

項目	部落名	住民の要望	対策 (改善案)			備考
			昭和52年度	昭和53年度	昭和53年以降	
保健性に ついで て	中笠陣破	●屋敷内の排水溝の整備	共同給水施設の設置			地区全体として要望すること ●ゴミ収集場所の整備 ●共同下水道の早期着工 対策 自主的にとりあげるもの ●ゴミ収集場所の整備と清掃 ●ゴミは決められた日に決められた場所に必ず出す
	内生谷	●簡易移動式ゴミ収集箱の設置	改良ゴミ収集箱の設置		共同給水施設の設置 (54年)	
	池尻	●簡易移動式ゴミ収集箱の設置 ●下水排水の整備 (下水道の整備)	ゴミ収集場所の整備 ブロックの簡易焼却炉の設置 1カ所			
	福平	●ゴミの処理 (ゴミ収集車の巡回) ●水道施設の整備 ●家庭排水の改善	ブロックの簡易焼却炉の設置 1カ所			
	田穂	●上水道タンクの増設 (現在水源の水が少ないので) ●共同下水道の整備	上水道タンクの設置	共同給水施設の設置 (農業改良資金)		
	柳沢別所	●ゴミの処理 (ゴミ収集車の巡回)	ブロックの簡易焼却炉の設置 1カ所			
	嘉例沢	●ゴミの処理 (ゴミ収集車の巡回)				
利便性	嘉例沢	●田穂-嘉例沢間の道路の舗装 ●冬期間の交通の確保				地区全体として ①道路の整備 県道(田穂橋-福平橋) 市道(田穂線-福平線) 林道(田穂-嘉例沢線) ②県道市道に融雪装置の設置 ③県市道の測溝を融雪溝に改善の促進 ④公衆電話の設置
	池尻	●林道を舗装して融雪装置をしてほしい ●林道の延長 ●県道の拡幅改良(500m) ●地鉄バス、スクールバスの待避所の敷地と路面の整備	●県道の拡幅改良 ●地鉄バス、スクールバスの待避所の路面の整備			
	福平	●冬期除雪作業を今少し多くしてほしい ●部落内の道路の改良促進 ●福平橋より県道60m位の改良				
	田穂	●道路の整備				
	柳沢別所	●通学道路の改良 ●冬期間の交通の確保				
	阿弥陀堂	●農集電話の改善				
快適性	中笠陣破 尾山 阿弥陀堂 笠破 池尻	●振興会で自主的に解決出来るもの ●用水路のイザライ ●農林道の雑草刈り ●共有林の造林の手入れ ●共同で作業道の刈払い整備 ●見舞返しの廃止 ●川にゴミを流さない(捨てない)	●川にゴミを捨てない運動の展開 ●標識をあげる (2カ所)	●川にゴミを捨てない運動の推進 ●標識をあげる	●川にゴミを捨てない運動の推進	地区全体として要望と対策 ●川にゴミを流さない運動を展開する ●冠婚葬祭の簡素化を申し合せる ●標識をたてる
	柳沢別所 釈迦堂	●集会所の設立		釈迦堂の集会所施設	柳沢別所の集会所施設 (54年)	
文化性	池尻 朴谷 朴谷福平	●野菜作り学習会の開催 ●運動会の開催時期を8月の盆休みに (ブロック別にチームを作る) ●婦人を対象にした学習会の開催	●池尻部落で野菜作り教室 ●朴谷、内生谷で婦人米ずくり教室 ●居住環境の改善の推進 (中陣、朴谷、尾山、柳沢別所)	●田穂、福平で婦人の部落活動を進める ●居住環境改善の推進 (阿弥陀堂、釈迦堂、内生谷、笠破)		地区全体としての要望と対策 ●婦人、高齢者を対象として学習会の開催 ●公共施設の設備の充実

7. 昭和52年の改善計画

関係機関の実務担当者及び専門委員と打ち合せした結果、その年に改善可能なものの範囲がわかる。それをもとに住民が自主的に取

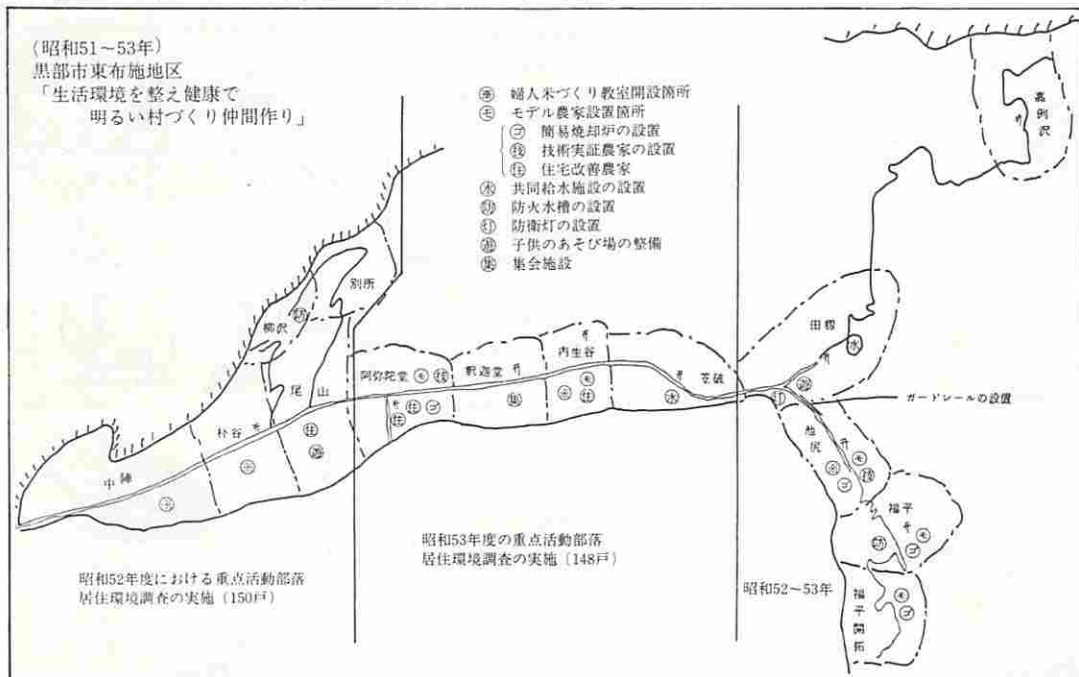
り上げるものと、関係機関の援助を得て実施する改善計画を明示し、住民の意志統一をはかって行動に結びつくように働きかけた。

住みよい村づくり事業（昭和51年度指定）		対象地 黒部市東布施地区 黒部農業改良普及所	
昭和52年度の改善計画			
課 題 生活環境を整え健康で明るい村づくり			
	自主的にとりあげてやれる事業	関係機関の協力を得て実施したい事業	普及事業及び黒部地区生活改善連絡協議会で実施したいこと
安 全 性	<ul style="list-style-type: none"> ●防火のための夜回りの励行 	<ul style="list-style-type: none"> ●地すべり対策事業の着工 嘉例沢 52年度より着工 ●防火水槽の整備 福平、柳沢別所 2カ所 ●子供のあそび場の整備 ●ガードレールの整備 内生谷 川添 100～150m 県道 30m 池尻 県道 150～200m 田郷 市道に添って田郷の橋から150m ●長引野用水口のフタ又は安全サク ●防犯灯の整備 増 灯 4カ所 20カ所 きりかえ 16カ所 	<ul style="list-style-type: none"> ●消火器を使って消火器の使い方講習会
保 健 性	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴミステーションの清掃 ●衛生害虫の定期的な駆除 	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴミ収集車の巡回 不燃物 月1回 可燃物 週2回巡回 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期健康診断の受診率を高める総合検診の実施 ●家族の健康維持増進 食生活改善の推進 郷土料理の展示会
利 便 性		<ul style="list-style-type: none"> ●冬期間の交通の確保（福平、柳沢別所） ●バスの待避所の敷地及び路面の整備（池尻） ●道路の舗装 内生谷 ガードルボレの設置と舗装 ●県道福平―石田線の田郷橋から福平までの改良促進 ●市道田郷―福平線の改良促進 	
快 適 性	<ul style="list-style-type: none"> ●川のえざらい ●川にゴミを流さない運動 ●種子の共同購入（花） ●冠婚葬祭の簡素化 	<ul style="list-style-type: none"> ●標識の設置（川にゴミを流さないため）年10本の標識の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●モデル農家を指定して 簡易焼却炉の設置 5基 開拓 1 福平 センター 1 柳沢 1 別所 1
文 化 性	<ul style="list-style-type: none"> ●集会施設の整備 ●老人クラブ、婦人会の学習会の開催（布施学級）第9回 		<ul style="list-style-type: none"> ●学習会の開催 野菜づくり教室 1カ所 米づくり教室 3カ所 ●部落活動の推進 重点部落4部落を指定して活動する（朴谷、尾山、内生谷、池尻） ●居住環境改善の推進 （中陣、朴谷、尾山、柳沢別所の住宅調査）

8. 生活環境整備に関する現状、対策及び問題点

生活環境整備に関する現状、対策及び問題点		黒部農業改良普及所				
地区名 黒部市 東布施						
主要現状と住みにくさの原因	対 策 及 び 問 題 点					
	整備予定内容又は問題点	整備予定時期	資金調達法	市町村の考え	普及所の課題	
安 全 性	防災防犯 ● 県道に沿って用水路があるが水量が少なく防火用水としての役をなさない ● 防火（消化栓、防火用水、溜池）施設が十分でない ● 道路巾がせまくカーブが多いため防犯には不用心	● 福平、田畑地区に防火用水が整備される ● 県道に沿って用水路があるが用水路がせまく水量が少ない。防火用水としての役をなさない。火災、防犯に対する対策が第一に望まれる	52年 8 月	● 防火用水については用地は地元負担で工事費は市負担となる	● 住民の環境改善意識の高まることは歓迎する。その中で要望が提出される場合、市の計画にあるものについては受け入れて行きたい	● 地区の発展のため住民の意欲を開発しながら自主的に農業生産と生活の調和ある農村生活環境づくりが出来るように働きかけて行く
保 健 性	ゴミ処理 ● 県道に沿って川があるが防火用水であり家庭雑排水でありゴミを流す川のが不衛生である。水量も十分でない ● ゴミ収集車が巡回しない集落がある ● 個人の住民においては排水溝の不備な住民が多い	● ゴミ収集車の巡回しない部落に簡易焼却炉を設置する（5部落に） ● 川にゴミを流さない運動を展開する ● 川が不衛生である	52年 6 月	● 市の事業と関連している事項については予算のうらづけが出来るがその他、住民の発想による事項については地区住民の負担となる	● ゴミ収集車の巡回しない部落があるか部落の要望があれば収集車を巡回させる ● ゴミの収集日、収集場所川に流さないよう標識をたてる	● 自分達の住む地域は自分達の手で良くしていくという自主的な姿勢でのぞみ、申し合せ事項を決めてこれを守り、実行させる
利 便 性	● 道路交通 集落の道路で未整備のところがある。道路巾がせまく人道、車道の区別がつかない	● 道路の整備 ● 道路巾がせまく雪がふるとブルトーカーが入らないため交通のとだえところがある。	年次計画をたてて		● 住民の意向を十分に考慮するようにつとめている ● 道路の整備については積極的に考え、とりくんでいる	● 地域診断を実施して地域生活環境整備の問題点を知らせると共に推進リーダーを作って組織化を計り、計画をたてて関係機関につなぐ
快 適 性	● 憩い 部落に公民館があるがあまり活用されていない 設備も不十分である ● 人間関係 結婚式、葬式に必要な見栄をはっている	● ゴミ収集場所の清掃 ● 部落公民館の整備と施設の充実 ● 釈迦堂 ● 冠婚葬祭にお金をかけ、普段の日常生活をそまつにしている。	53年	資金の借入	● 地域住民の意向を尊重し出来るだけの援助をして行く ● 冠婚葬祭の簡素化をよびかけている	● 自主的に解決の出来る身近かなものから改善していく
文 化 性	● 婦人の部落活動が低調である 婦人のグループ活動もない ● 体育大会は年 1 回開催されるが全然参加しない部落がある	● 細長い地域のため人の集まりがよくない ● 地域住民の考え方は保守的で温厚であるが意志表示が他の地域に比べて悪い	52年 4 月		● 婦人会活動の啓蒙と推進	● 生活改善課題を作って部落活動を推進し人と人とのつながりを密にしていって生活環境の問題を問いつけながら解決の方法を生み出す

9. 住みよい村づくり事業推進状況（S51～52年の実績）



10. 生活環境診断総合結果表（51年～53年の比較して）

生活環境診断総合結果表（51年と53年の比較に）												
所在地	富山県黒部市							地区名	東布施			
	昭和51年	経済地帯	都市近郊	平地農村	山村	山村	漁村		関係あるD I D 市	50年	黒部魚津	主な集落の形態
市・町人口等世帯数	区分	40年	45年	50年	地区人口等世帯数	調査年	50年	市町村面積		8,791ha		
	世帯数	7,180戸	7,721戸	8,314戸		世帯数	424戸	地区面積		3,803ha		
	人口	32,821人	33,438人	34,454人		人口	1,879人					
	農家戸数	3,099戸	3,084戸	2,925戸		農家戸数	356戸					
	農家人口	16,109人	14,879人	13,742人		農家人口	1,671人					
地の財区共産内有等	林野	地区内の主な社会集団組織										
	耕地	250ha										
	溜池	2ha										
総合診断結果	安全性 (34点)						総合評点	S51年	57.6点			
	保健性 (30点)							S53年	65.4点			
	文化性 (10点)						評点区分					
	利便性 (16点)						I		30点未満		大変住みにくい	
	快適性 (10点)						II		31～60点		少し問題がある	
						III		61～85点		まあ住み良い		
						IV		86点以上		大変住み良い		

11. 活動の成果

「生活環境を整へ 健康で明るい村づくり」

生活環境整備委員会
地区住民
住みよい村づくり
地区協議会

◎ 地域でとりあげたもの

- 川にゴミを流さない
- ゴミステーションの整備
- ゴミは決められた日に出す
- 川のイザライ
- 夜まわりの列行
- 婦人学統の開催（郷土料理集の発行）
- 部落活動を活発にする

◎ 個人でとりくんだもの

- 川にゴミを流さない
- 部落学習会に参加する
- 年1回以上健康診断を受ける
- バランスのとれた食事作り
- 明るい家族関係を作る
- 簡易便所を作ってもえるゴミはもやす。
- 消火器をとりつける

◎ 生活環境施設の設置

- 防火水槽の設置
- 防犯灯の増設
- 共同給水施設
- 子供のあそび場の整備
- 防道さくを作る
- 集会所を作る

1年1回以上健康診断を受ける
部落の学習会に喜んで参加する
（婦人米づくり、野菜づくり教室）
明るい家族関係を作る
簡易便所の設置（ブロックを組立てて作る）
上手な使い方の実習
川にゴミを流さない
バランスのとれた食事作り

防火水槽
防犯灯の増設
共同給水施設
子供のあそび場
防道さく
集会所

12. 51年度と53年度を比較して対象地区の変化と総合的考察

◆51年度

- 対象地区は山と川にはさまれた山麓地帯の辺地でもあり、地域の生活環境整備等に関心は低かった。そしてその改善についての窓口は主として市役所であり、行政で解決してもらうものと考えている人は多かった。
- 地域総合診断の結果、地区の問題点を知り部落長を中心にして自主的に身近かで改善しやすいものから解決していった。「自分達の住む地域は自分達の手で、少しでも良くしてゆく」という方向で話しを進めた。

◆53年度

- 昭和51年事業開始当初では地域診断の結果、総合評価57.6点とすこし問題のある地域であったが、53年12月では65.4点とわずかではあるが改善され、まあ住みよいところにな

なった。

- 部落により、成果の上があったところ、そうでない部落との差はあるが、地区全体として住んでいる生活環境に眼をむけ問題点を改善しなければという気持は住民、みんなが持っていると判断される。
- 地区協議会には、部落長全員が出席する。年初めには地区内の各種団体長、部落長が集って、その年に実施する計画や活動方針について話し合うが、部落長は、部落の中で話し合っ、部落別の生活環境改善計画を持って出席されるようになった。
- 地区内の各種団体が協力し合い遊具等も創意工夫して共同作業で手づくりの広場が作られた。地区住民は農家も非農家もこの共同作業に積極的に参加した。

◆総合的考察

- 生活環境に対する関心は高まった。

●自分達の住む地域は自分達の手で良くして行こうという意識開発がおこなわれた。

●行政への信頼の回復と郷土の見直し、仲間意識の高揚、そして子供たちのためによくしてゆこうという積極的な意欲がみられる。

●推進リーダーは地域生活環境の問題点と住民の意向を掌握したことをよりどころに個人の利害にとらわれず、更に大きな問題解決へと展開して行く手がかりにした。

●既存の組織を利用して住みよい村づくりについて、なんでも話し合える自主的な受け皿を作り、しかも定期的に話し合いを実施して行く習慣が身についた。

ま と め

ここであえて普及事業の役割りを考えてみたい。大きな事業費も権力も持たない普及所がなぜ農村の生活環境整備という大きいものに取り組まなければならないかということである。

まず

①農業者の意識開発を最重点とした人づくりである。

②農家、農村生活のよさを自覚させる。このことが農業者の生きがいと結びつき後継者の育成につながる。

③仲間意識の高揚である。

農村に生まれ、育ち、例え30aでも作業衣を着て耕作し、土にまみれ汗によごれて農作業に従事してこそ、農業者としての体面と仲間意識も生まれる。農業に従事する人、農村に生活する人達は、長い年月の体験から共同

作業の大切さを知っている。

●普及所はたえず、農業者がともすれば忘れがちな農業の良さ、非農家も含めてむらのよさを問いかげながら仲間意識を認識させて行かなければならない。

●むらの良さを失わないで更に時代に合った新しいむらづくりを常に住民と共に考えて行かなければならない。

●行政で解決を願わなければならないものは住民と行政のパイプ役として、また住民自身で解決出来るものは仲間意識を高揚させながら、自分達で解決し決めたことは必ず守って住みよいところにして行くという郷土愛とむらのよさを認識させ推進リーダーを作って解決して行く。このことは普及事業ならばこそ出来る仕事ではなからうかと考えます。まず

①地域の実態をよく知る。

②出て来た問題を整理する。

③住民に知らせる（問題を提起する）。

④話し合う場を作る。

⑤リーダーを育て住民同志話し合い住民の納得の上でその地域に合った解決方法で住民の自主的な行動によって解決に導く。

このことが普及のよさであり、普及事業の役割りである。

●営農、生活技術の向上と合わせて健康づくり、心のふれ合う豊かな家庭づくり、それがむらづくりにつながって行くことを確信して1回1回の会合を大事にして行きたいと思えます。